

自己評価表

愛媛県立南宇和高等学校  
学校番号（ 44 ）

| グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針） |                                                                                                                            | カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針） |                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【普通科】                             | ●将来につながる知力・体力を取得し、自己の未来を切り開く行動力を育成します。<br>●自己表現力と協働性・社会性を養い、将来、地域に貢献できる人材を育成します。<br>●未知の困難に直面しても諦めないレジリエンス力を育成します。         | 【普通科】                          | ●主に短大・就職を目指すⅠ型、主に大学進学を目指すⅡ型（文系・理系）を設置します。<br>●南光叶夢センターと協働した一人一人の夢に寄り添う個別対応教育を実践します。<br>●普通科と農業科の生徒が協働して探究活動を行う総合的な探究の時間を実施します。<br>●持続可能な農業に関する実習や、プロジェクト学習を取り入れた授業を実施します。 |
| 【農業科】                             | ●安全・安心な農業・食品加工に関する様々な知識・技術を身に付けたスペシャリストを育成します。<br>●自己表現力と協働性・社会性を養い、将来、地域に貢献できる人材を育成します。<br>●未知の困難に直面しても諦めないレジリエンス力を育成します。 | 【農業科】                          | ●愛南町の地域産業（農業・水産業）と連携した学校の魅力化を推進する授業を実践します。<br>●農業科と普通科の生徒が協働して探究活動を行う総合的な探究の時間を実施します。                                                                                     |

| 領域                              | 評価項目              |               | 具体的目標                                                                                 | 評価 | 目標の達成状況                                                                                                                   | 次年度の改善方策                                                                                                                      |
|---------------------------------|-------------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ンエー<br>シ・グラ<br>ド<br>デュエ<br>ーション | グラデュエーション・ポリシーの達成 |               | グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じている教職員の割合7割以上                                           | A  | 今年度より、この項目を自己評価に入れて検証するが、教職員の回答は83%を示し、目標を達成している。グラデュエーション・ポリシーの内容は生徒に対しても、始業式をはじめ各種式典における校長式辞にも盛り込んで話しているため、浸透していると思われる。 | グラデュエーション・ポリシーは学校の方針であるため、地域をはじめ一般に向けても広く発信する必要がある。特に、来年度以降は全国募集に向けて、全教職員の意識を高め、さまざまな方法で生徒育成と情報発信を行う。                         |
| 学校経営                            | 1                 | 地域に開かれた学校運営   | 地域と連携した活動による学校の魅力化の推進                                                                 | B  | 愛南町との連携による学習支援・叶夢センターや給食も順調に実施でき、外部からの問い合わせもありPRできていると考える。教育振興協議会の支援も大きく、防災地理部の活動や海外研修をはじめ、南宇和高校の魅力化につながっている。             | 愛南町との連携、教育振興協議会からの支援による活動、総合的な探究の時間を活用した地域の人材を活用した教育活動など、特色を生かした教育活動について継続した実践を行う。さらに、次年度は、全国募集に向けて魅力の発信を、地域協働推進室をはじめ全教職員で行う。 |
|                                 | 2                 | 学校の魅力を情報発信    | 学校ホームページを毎日更新、「南高通信」を毎月発行                                                             | A  | ホームページの南光ブログを充実することで、本校の魅力発信につながった。南光ブログはその日の学校行事をタイムリーにアップした。一日の平均閲覧数は330件程度あり、昨年より15%程度の閲覧数増加となっている。                    | 本校の多方面の魅力発信のために全教職員が取組む意識を持ち、南光ブログを毎日更新する。南高通信も発行を継続し、魅Can部の情報発信だけでなく、広報あいなんやCATVなどへ情報提供をすることで、本校への進学に関する情報や取組の紹介を推進する。       |
|                                 | 3                 | 皆勤率の向上        | 健康の自己管理を呼びかけ、全校の1か年皆勤率55%以上<br>A:55%以上、B:54～50%、C:49～45%、D:44～40%、E:40%未満             | E  | 全校生徒数238人に対して1か年皆勤者数は、94人（39.5% 2学期末現在）であった。2学期以降で欠席する生徒が多く見られた。                                                          | 家庭と連携した指導を行い、体調管理及び規則正しい生活習慣の確立を呼び掛け、皆勤率の向上を図る。                                                                               |
|                                 | 4                 | 公開授業の充実       | 公開授業見学者 延べ100人以上<br>A:100人以上、B:99～90人、C:89～80人、D:79～70人、E:70人未満                       | A  | 体育祭、文化祭などの学校行事において、多くの保護者に生徒、学校の様子を見ていただくことができた。年2回の公開授業の参観者も増やしていきたい。                                                    | 学校ホームページやマチコミメールを活用して案内するなどの工夫が必要である。                                                                                         |
| 学習指導                            | 5                 | 家庭学習の充実       | 家庭学習（自主学習）1日2時間以上<br>A:2時間以上、B:1時間59分～1時間30分、C:1時間29分～1時間、D:59分～30分、E:30分未満           | A  | 2学期における家庭学習時間調査では1年生でも180分を超える生徒が増えてきている一方、クラス平均が75分のクラスもあり、差が激しい。ふだんから家庭学習を習慣化させていきたい。                                   | 今後も家庭学習時間の少ない生徒への働き掛けを行い、基礎学力の定着を図る。                                                                                          |
|                                 | 6                 | 基礎学力の定着       | 適切な課題提示と家庭学習状況の確認                                                                     | A  | 適切な課題が提示され、提出期限を守って提出された課題から家庭学習状況の確認が行われた。                                                                               | 課題は各教科での偏りがないように計画的に実施し、今後も生徒の負担になりにすぎないように配慮していく。                                                                            |
|                                 | 7                 | 分かる授業         | ICT機器活用の授業推進と授業研究会の実施                                                                 | B  | 教科によって差はあるものの、ICT機器の活用は各教科で進められているようである。これからも魅力ある授業づくりを心掛けていきたい。                                                          | 今後も生成AIの効果的な活用も含め、スキルアップを目指していきたい。                                                                                            |
|                                 | 8                 | ICTの活用        | 教科・ホームルームでのMicrosoft365及び一人一台端末の利用促進                                                  | B  | Teamsを用いての生徒連絡やFormsを用いたアンケートの集計等、授業や総合的な探究の時間で活用が見られた。                                                                   | 今後もMicrosoft365を利用し生徒一人一台端末の利用方法の研修会を実施するとともに、教科会で利用方法について研究し、教科に応じた活用を促進する。                                                  |
| 生徒指導                            | 9                 | 基本的生活習慣の確立    | 校則などルールを守っている生徒の割合90%以上<br>A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%。E:60%未満                 | A  | 身だしなみ指導をはじめ、校則を遵守する割合が昨年度より高くなっている。一人一人の主體的な規範意識が向上しているのではと感じる。                                                           | 普段の学校生活から自分の身だしなみに気を付けられる、規範意識の高い、主体性を持った生徒を育成する。                                                                             |
|                                 | 10                | 安心・安全な学校生活の確立 | 学校生活を安心して送れている生徒の割合90%以上<br>A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%。E:60%未満                | B  | ほとんどの生徒が安心して学校生活を送っているが、中には不安要素(友人関係、SNS問題等)を抱えている生徒も少なくない。開かれた学校にするためにも、生徒に寄り添った生徒指導を心掛け早期発見、早期解決につなげたい。                 | 生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、今後も生徒に寄り添った生徒指導を心掛け、友人関係やSNS問題に早期発見・早期解決ができる体制を整える。また、報告・連絡・相談・確認といった、情報連絡体制を教員も整える必要がある。              |
|                                 | 11                | 部活動の活性化       | 自らの目標に向けて努力をしている生徒の割合90%以上<br>A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%。E:60%未満              | A  | 部活動の加入率も110%(重複有)と年度当初から高く、それぞれの部活動が目標を持ち、活発に活動している。本校の生活指針である、「勉学に部活動に気力を」を念頭に、有意義な部活動を行いたい。                             | 学校の生活指針でもある、「勉学に、部活動に気力を」を念頭におき、生徒が主体的に部活動に参加できる体制を整える。生徒数が減少し、休部、廃部になる部活動が多くなっている現状があり、生徒が活動しやすい体制を整えていく必要がある。               |
|                                 | 12                | 学校行事の充実       | 学校行事が充実していると感じる生徒の割合90%以上<br>A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%。E:60%未満               | A  | 生徒が主体的に学校行事に参加している。企画運営も含め、体育祭や文化祭では、今年は体育館が使用できない等、限られた制限の中で生徒会や各種委員会が中心になり、学校行事を全校生徒で盛り上げてくれた。                          | 生徒会や各種委員会が中心となり、生徒主体で学校行事が行えている。今後も、ボトムアップ(生徒が自ら考え、行動する力)を引き出しながら、令和9年度の創立120周年に向けて、生徒を中心とした学校行事の充実を図りたい。                     |
| 進路指導                            | 13                | 進学指導及び実績      | 幅広い受験方式に対応した面接・小論文指導の充実を図り、進学決定率100%<br>A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満     | B  | 国公立大学の年内合格は出なかったが、共通テストが課された総合型、学校推薦型選抜で4名、一般入試前期で3名が合格した。その内訳は、愛媛大学に4名、長崎大学、高知大学、高知工科大学にそれぞれ1名ずつであった。                    | 叶夢センターとの連携をさらに密にして、授業はもちろん、総合的な探究の時間などのさまざまな取組を進学につなげられるように体制の充実を図りながら、面接や小論文等の指導を教員全員で行っていきたい。                               |
|                                 | 14                | 就職指導及び実績      | 就職ガイダンス・面接指導の充実を図り、就職決定率100%<br>A:100%、B:99～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:70%未満             | B  | 学校斡旋就職希望者は、年内に全員が内定をいただくことができた。公務員試験については、自衛隊の一般曹候補生に1名合格することができた。                                                        | 公務員希望者に対しても支援を充実させ、情報共有を密にして100%合格を目指したい。                                                                                     |
|                                 | 15                | 進路実現のための指導    | 担任による進路面接の実施、年5回以上(三者面談を含む平均回数)<br>A:5.0回以上、B:4.9～4.0回、C:3.9～3.0回、D:2.9～2.0回、E:2.0回未満 | A  | 面接をこまめに行い、生徒の進路希望や悩み等の把握、進路情報の提供に努めている。生徒との信頼関係を高め、進路実現につながる働き掛けができている。                                                   | 来年度も本年度の取り組みを踏襲し、進路課からの意識統一と学年団での意思疎通を図った指導ができるよう、積極的に改善していきたい。                                                               |
|                                 | 16                | キャリア教育の充実     | インターンシップの充実、進路ガイダンスの実施                                                                | B  | インターンシップの実施や総合的な探究の時間における地域人材の活用、更に、南予地方局による企業合同説明会の実施等、地域の方々の積極的な協力のおかげで行うことができた。                                        | 活動を通して、自ら課題を見つけて取り組む姿勢や、活動の成果を自分の言葉で表現する力の大切さなどを実感させ、将来の進路に向き合い、今、何をすべきか考えさせる機会をさらに増やしていきたい。                                  |
| 心の教育                            | 17                | 教育相談の充実       | 準SCによる1、2年生全員との面談実施と、月1回のSSW訪問の活用                                                     | A  | SCは今年度も一人一人に多くの時間を割いて面談を実施した。またSSWは生徒の個別の問題や関係機関との連携に役立てることができた。                                                          | SCによる面談は今後も充実させていくとともに、月一回のSSWの訪問も有効に活用していくことを考えたい。                                                                           |
|                                 | 18                | 人権・同和教育の充実    | 教職員の資質の向上と生徒の日常生活に生きる人権・同和教育の推進                                                       | A  | 宇和島地区高校生人権委員との交流学習会や御荘中学校、城辺中学校の生徒との座談会に参加し、有意義な交流を実施することができた。                                                            | 他校との交流は生徒にとって大変意義のある活動であり、教員の資質の向上にもつながることなので、今後も積極的に取り組んでいきたい。                                                               |
|                                 | 19                | 朝読書の定着        | 「みんなで毎日、朝読書(教員を含む)」で、本を全く読まない生徒をなくす                                                   | A  | 朝読書によって毎日10分の読書時間を確保でき、多くの生徒が静かに読書することができていた。また週1回の放課後の図書館開放も活用できた。                                                       | 朝読書が有意義な時間となるように「一斉に始める」「みんなで毎日読む(教員を含む)」ことを徹底し、読書の習慣化に向けて全校体制で取り組む。                                                          |
|                                 | 20                | 図書館教育の充実      | 図書館の充実を図り、生徒の読書冊数を年間一人4冊以上<br>A:4.0冊以上、B:3.9冊～3.5冊、C:3.4冊～3冊、D:2.9冊～2.5冊、E:2.5冊未満     | A  | 新刊図書の購入や図書館だよりを2か月に一度配布し、図書館の利用促進を図ることができ、年間読書冊数5.9冊と目標を達成することができた。                                                       | 生徒にとって魅力的な本の設置に取り組み、図書館だよりの定期的な配布を継続し、図書館の利用促進に努め、生徒の読書冊数向上に取り組む。                                                             |
| 地域連携                            | 21                | 教育機関の連携       | 小学校・中学校・高校との交流学習の実施及び参加回数10回以上<br>A:10回以上、B:9回、C:8回、D:7回、E:7回未満                       | A  | 小学生との田植えや稲刈り、河内晩柑の加工品づくりなどの活動を通して、一緒に活動して教える楽しさや難しさを体験することができた。                                                           | 小中学校の稲刈りや学級園などでの野菜栽培、花壇整備などいろいろな分野で連携学習を増やしていきたい。                                                                             |
|                                 | 22                | 地域資源の活用       | イベントやコンテストの参加を通して、特産品のPR活動を実施                                                         | A  | 文化祭、東京や仙台での愛南フェア、えひめまつりやま産業まつりなどのイベントで河内晩柑を使ったマーマレードやジュースを販売してPRすることができた。                                                 | 地域のイベントやコンテストに積極的に参加し、恵まれた地域資源を生かして地域の魅力を発信していきたい。                                                                            |
|                                 | 23                | 地域交流・地域貢献     | 地域交流参加生徒数延べ500人以上<br>A:500人以上、B:499～470人、C:469～440人、D:439～400人、E:400人未満               | A  | 総合的な探究の時間や奉仕活動、地域振興研究部、生徒会の活動などで積極的に地域に出て活動することができた。                                                                      | 地域の資源を生かした授業や活動を多く取り入れて、高校生の若い力を地域の活性化につなげていきたい。                                                                              |
| 業務改善                            | 24                | 環境美化の推進       | 校内の清掃活動に積極的に取り組む生徒90%以上<br>A:90%以上、B:89～85%、C:84～80%、D:79～70%、E:70%未満                 | B  | 生徒数減少により生徒一人に対して清掃場所が広域となり、清掃が行き届いてない場所等もある。                                                                              | 少人数でも、清掃ができるよう配置や実施方法などを検討し工夫する。清掃時に音楽を流すなどして清掃時間の終わりを意識付けさせることや普段から校内美化に努めさせることなどを、周知徹底する。                                   |
|                                 | 25                | 教育環境の整備の推進    | 長寿命化改修工事による施設設備整備と教育活動の計画的実施                                                          | A  | 長寿命化改修業者、エアコン業者、県担当と学校の4者で工程会議を行い、教育活動に影響が出ないよう調整することができた。工期も予定通りであり、3月末に完了予定である。                                         | 来年度は、令和9年度にある周年行事に向けて、校内の施設設備の点検を行い、適する教育活動ができるように予算配分を行う。                                                                    |
|                                 | 26                | 働き方改革の推進      | 部活動休養日の実施、出退勤時間の記録徹底によるワークライフバランスの改善                                                  | A  | 部活動休養日の実施が徹底でき、試合等で休養できない場合も代替日の設定ができた。職員の勤務状態も、ワークライフバランスを考えるよう促し、退勤時間が昨年度より早くなった傾向が見られた。                                | 部活動改革と合わせて、可能な範囲で職員の休暇取得を推進する。また、ワークライフバランスをより強く考えてもらうよう、勤務間インターバルの考え方も呼び掛ける。                                                 |

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。